

令和 2 年度事業報告 及び一般会計歳入歳出決算



茨城県支部

1. 令和2年度事業報告

(1) 災害救護事業 災害救護体制の強化

災害時に迅速かつ的確に救護活動を展開するため、救護員等の訓練・研修を行った。
また、地区分区に対し、毛布などの救援物資の配布と救援車両などの資機材の配備を行った。

【主な訓練・研修実施状況】

実施日	訓練名等	主催者
9月8日・9日	支部災害対策本部運営訓練	日赤茨城県支部
11月26日	百里飛行場航空機事故対処部分訓練（web開催）	国土交通省
12月5日	本社・第2ブロック支部災害救護訓練（web開催）	日赤新潟県支部
12月15日	こころのケア指導者養成研修会（web開催）	日赤本社
1月16日	防災ボランティアリーダー養成研修会（web開催）	日赤本社
2月26日	常備救護班等災害救護訓練（web開催）	日赤茨城県支部
3月5日	第2ブロック被災地支部災害対策本部運営支援訓練（web開催）	日赤栃木県支部
3月8日・9日	支部災害対策本部運営訓練	日赤茨城県支部



（第2ブロック被災地支部災害対策本部運営支援訓練）



（支部災害対策本部運営訓練における防護衣の着脱）

【地区分区への救援物資の配布状況】

品 目	配布数	品 目	配布数
毛布	350枚	ブルーシート	100枚
緊急セット	90組	布団セット	233組
タオルケット	306枚	安眠セット	75組

【地区分区への救護資機材の配備状況】

品 目	配備数	品 目	配備数
救援車両	5台	簡易型テント	7張

(2) 救急法等講習の実施

新型コロナウイルス感染症に留意し、オンラインの活用など新たな生活様式に則って救急法、幼児安全法、健康生活支援講習の各講習を実施した。



オンラインを活用し高等学校の生徒などへ講習普及



ペットボトルを活用した心肺蘇生の実技練習

【講習の実施状況】

種 別	短期講習 (対面型)		短期講習 (オンライン型)		合計	
	回数	受講者数	回数	受講者数	回数	受講者数
救急法	78	2,155	5	202	83	2,357
健康生活支援講習	4	60	0	0	4	60
幼児安全法	14	186	3	137	17	323
合 計	96	2,401	8	339	104	2,740

(3) 赤十字奉仕団の活動

- ・ マスク作りなど地域のニーズに応じた活動を実施。
- ・ 救急法等の普及など赤十字事業の推進に協力。
- ・ 赤十字会員増強、献血にかかる推進活動を実施。
- ・ 海外たすけあい、各種義援金の募金活動を実施。

【奉仕団数及び奉仕団員数】

地域赤十字奉仕団	42団	6,911人
特別赤十字奉仕団*	11団	918人

*アマチュア無線奉仕団、看護奉仕団、学生奉仕団 など



奉仕団基礎研修会

(4) 青少年赤十字の活動

- ・ 新型コロナウイルス感染症や同感染症の差別防止について冊子やポスターを作成し配布する等、啓発活動を実施。（各3,000部作成）
- ・ 高校生メンバーに対し、救急法や防災に関するオンラインセミナーを実施。（延9校258人参加）

【青少年赤十字の加盟状況】

幼稚園 保育所	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	計
10園	160校	99校	75校	2校	346校



オンラインセミナーの様子

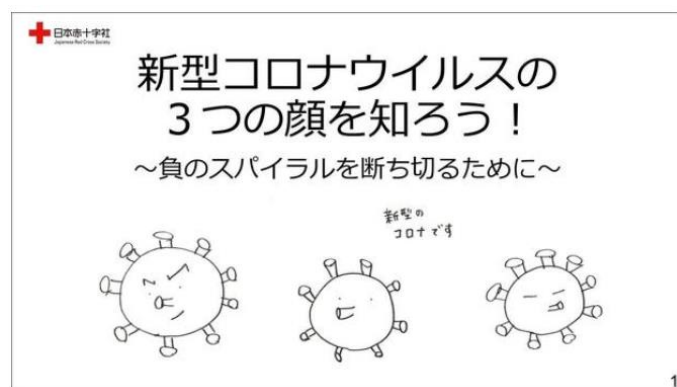
※義務教育学校は中学校に、中等教育学校は中学校・高等学校に含みます。

(5) 赤十字活動の広報

日本赤十字社の使命や活動が多くのか民から共感を得られるよう分かりやすく伝えるなど、積極的な広報の展開に努めた。

メディアに対し、当支部の主要事業への取り組みや新型コロナウイルス感染症に対する赤十字社の活動を積極的に情報提供し、新聞やラジオなどに取り上げられた。

プレスリリース回数	メディアによる発信・報道				
	テレビ	新聞	ラジオ	タウン誌	その他
9回	1回	14回	9回	19回	7回



新型コロナウイルス感染症の
差別・偏見予防啓発冊子を配布



ラッキーFM（茨城放送）に出演
（日本赤十字社への遺贈について）

(6) 活動資金の確保 ①取り組みと結果

取組

- ・地区分区との連携、既存会員との関係強化、新規会員の開拓、遺贈寄付の受付推進を4つの柱として、多様な資金確保策を展開した。

結果

- ・**4億1,900万円**を確保。【目標額（3億7,500万円）**達成率112%**】

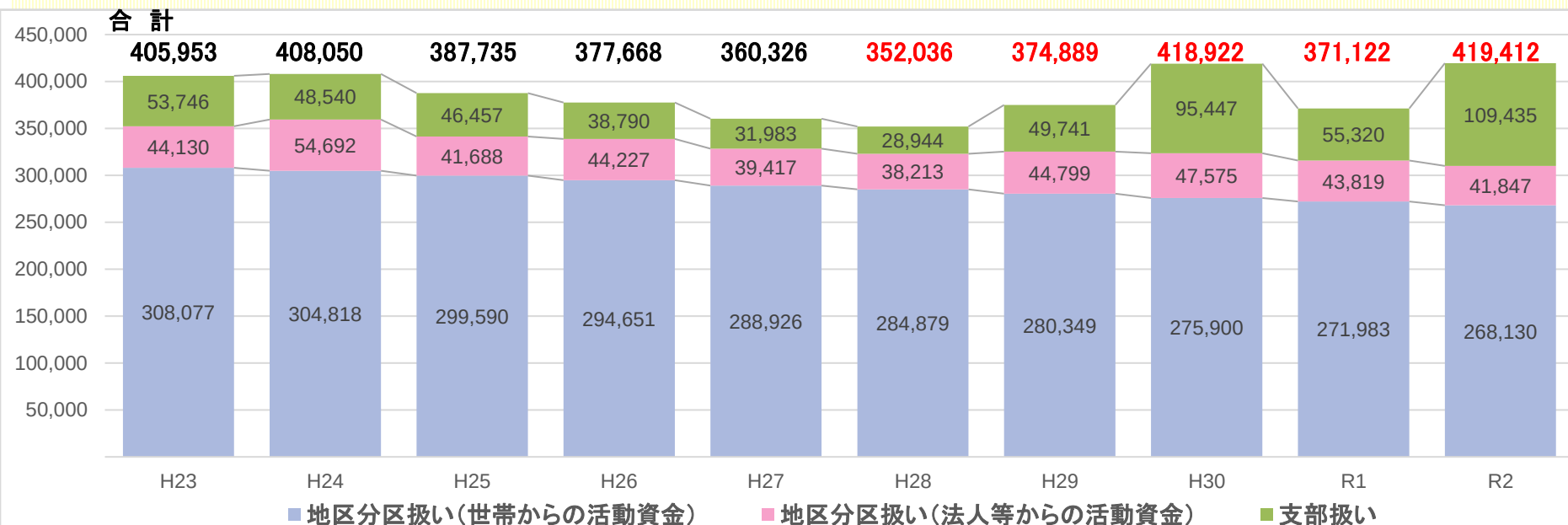
〈 活動資金確保プロジェクト 〉

柱	主な取り組み
地区分区との連携	・町内会等を通じた各世帯への協力依頼 ・町内会を通じた振込用紙付き広報紙の配布 ・地元法人等への個別訪問による協力依頼
既存会員との関係強化	・支部職員担当制による会員への個別対応（定期挨拶、個別依頼等） ・クレジットカード決済や口座振替による活動資金協力の推進 ・支援継続及び支援拡大を目的とした会員向けチラシの作成・配布〈新規取組〉
新規会員の開拓	・義援金や海外救援金等の寄付者へのダイレクトメールによる依頼 ・クレジットカード高額利用者に対するダイレクトメールによる依頼〈新規取組〉 ・会員の利便性向上のためコンビニ店頭での活動資金の収納
遺贈寄付の受付推進	・常陽銀行と遺贈寄付受付に係る遺言信託業務の協定締結〈新規取組〉 ・ラジオ及び新聞広告を通じた遺贈寄付に係る広報活動の実施〈新規取組〉

(6) 活動資金の確保 ②成果と課題

当支部の活動資金実績額の推移

(単位：千円)



成果

活動資金総額は、平成28年度に約3億5,200万円まで減少したが、平成29年度から「(※)活動資金確保プロジェクト」を開始したことにより回復基調にある。

(※)安定的な事業継続に向けた財源確保のため、支部事務局長をリーダーとし、多様な活動資金募集の展開と赤十字事業やネットワークを活用した施策を実施

課題

依然として世帯からの活動資金が減少していることから、引き続き多様な募集方法の検討に努める。

年度	活動資金総額 (単位：千円)	平成28年度を 100とした 指標
平成28年度	352,036	
平成29年度	374,889	106
平成30年度	418,922	119
令和元年度	371,122	105
令和2年度	419,412	119

2. 令和2年度一般会計歳入歳出決算

(単位：千円)

科 目	R2決算	R元決算	増減
歳 入	538,410	1,028,646 (514,426)	△490,236 (23,984)
歳 出	432,123	917,929 (403,709)	△485,806 (28,414)
差 引 (翌年度繰越額)	106,287	110,717	△4,430

*1：R元決算には、令和元年台風第19号災害義援金（983件：514,220千円）を含む

*2：()は義援金を除いた金額(以下、同様)

(1) 歳入決算

(単位：千円)

科 目	R2決算	R元決算	増減	備 考
社 資 収 入	419,412	371,139	48,273	・支部扱社資 109,435 (+54,115) ・地区分区扱社資 309,977 (△5,825) ※R元年度決算額は、海外救援金を含む
委託金等収入	2,983	768	2,215	・災害等補償収入 2,983 (令和元年台風第15号災害、令和元年台風第19号災害)
災害義援金 預り金収入	0	514,220	△514,220	
雑 収 入 等	5,298	15,854	△10,556	・補助金及び本社交付金収入 1,243(△2,482) ・繰入金収入 1,050(△998) ・講習会負担金収入等 3,005(△7,076)
前年度繰越金	110,717	126,665	△15,948	
合 計	538,410	1,028,646 (514,426)	△490,236 (23,984)	

(2) 歳出決算

(単位：千円)

科 目	R2決算	R元決算	増減	主な使途	主な増減理由
災害救護事業費	36,027	556,508 (42,288)	△520,481 (△6,261)	災害対応訓練 被災地への救護員派遣 災害対応における救援物資整備 被災者への義援金の送付	・ 常備救護班等訓練の中止 △1,369 ・ 被災地への救護員派遣の減 △2,270 ・ 災害対応設備の更新費の減 △1,954
社会活動費	34,197	53,331	△19,134	救急法などの講習、 奉仕団・青少年赤十字活動の普及	・ 講習回数・講習資材整備費の減 △7,353 ・ 研修会・活動機会の減 △10,430
国際活動費	1,000	1,307	△307	海外支援・開発協力活動 (バングラデシュ保健医療支援事業など) 国際交流事業	・ 国際交流事業の中止 △307 (青少年赤十字メンバー海外派遣の中止)
指定事業地方振興費 (個人住民税)	11,914	6,506	5,408	地区区分への救護資機材整備 (救護車両5台、テント7張) 災害対応における救護資機材整備	・ 救護資機材配備計画の増
地区区分交付金	53,608	55,546	△1,938	地区区分における赤十字活動費用に 充てるため地区区分扱いの社資収入 の一定割合を交付するもの	・ 地区区分扱い社資収入減に伴う減
社業振興費	45,343	47,227	△1,884	活動資金募集、広報活動	・ 会員管理システムの改修 +897 ・ ダイレクトメール発送回数の減 △2,224 ・ イベントのオンライン開催による減 △715
基盤整備交付金	6,099	5,088	1,011	病院等赤十字施設の整備を目的とし た寄付金を交付するもの	・ 施設あて使途指定寄付金の増
積立金	106,895	64,408	42,487	[災害積立] 災害発生時等、緊急の経費 [施設積立] 建物等の減価償却分	・ 災害等資金積立金の増 +37,000 ・ 施設整備準備資金積立金の増 +5,000
総務管理費	61,808	67,569	△5,761	事務管理等	・ 人件費の減 △4,357 ・ 監査費用の減(本社一括外注による) △568
資産取得 及び資産管理費	15,319	6,801	8,518	支部庁舎の維持管理	・ LED化、空調機器更新 +6,845 ・ メンテナンス費の増 +1,014
本社送納金	59,913	53,638	6,275	全国的な赤十字活動	・ 社資収入増による増
合 計	432,123	917,929 (403,709)	△485,806 (28,414)		

令和 2 年度事業報告 及び医療特別会計歳入歳出決算



水戸赤十字病院

1. 令和2年度事業報告

(1) 病院の特徴

①病床数 許可病床：442床 実働病床：342床

②診療科 24診療科

③特 徴

- ・ 基幹災害拠点病院
- ・ 第二次救急医療施設
- ・ 茨城県がん診療指定病院
- ・ エイズ診療拠点病院
- ・ 基幹型臨床研修病院
- ・ 緩和ケア病棟
- ・ 人間ドック施設 等
- ・ 地域医療支援病院
- ・ 地域周産期母子医療センター
- ・ 地域リハビリテーション広域支援センター
- ・ 第二種感染症指定医療機関
- ・ 病院機能評価認定施設
- ・ 地域包括ケア病棟

④職員数 職員数：645人（非常勤・嘱託職員は常勤に換算）

医師：73人 看護師：353人 医療技術者：91人 その他：128人

(2) 重要施策

① 医師の確保

- ・ 医療提供体制の維持・充実に図るため、専門の人材紹介会社を活用したリクルート活動とともに、日赤本社と一体となり、大学への働きかけを強化するなど医師確保に全力を注いだ。
- ・ 令和2年度は医師4名（消化器外科、脳神経内科、小児科、腎臓内科）の採用が内定した。

② 新型コロナウイルス感染症対策

- ・ 入院する患者全員への事前検査とともに、職員に対しても定期的に検査を実施し、院内感染の防止に万全を期した。
- ・ 最大80床の専用病床を確保、感染拡大に対応可能な体制を整備した。
- ・ 自前のPCR等検査機器を導入し、機動的かつ迅速な検査体制を整備した。

③ 敷地内アメニティ施設の開業

- ・ 患者サービスの向上を図るべく、調剤薬局、保育園、コンビニ、理美容室等が入居する敷地内アメニティ施設の開業準備をすすめた。

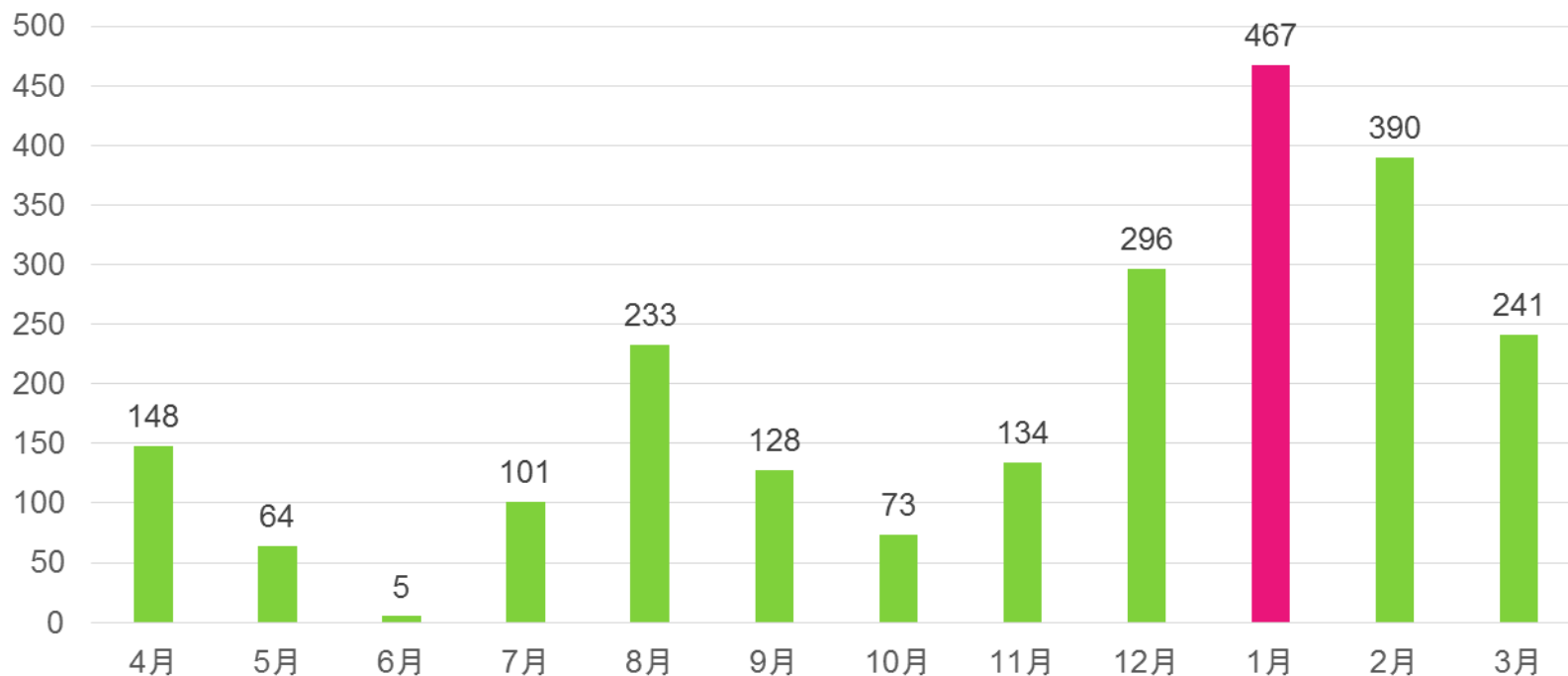
(3) 新型コロナウイルス感染症対応状況

①入院患者受入

新型コロナウイルス感染症患者対応のため、重点医療機関として専用病床を整備し、多くの陽性患者を受け入れた。

〔令和2年度 入院状況〕

(単位：人)



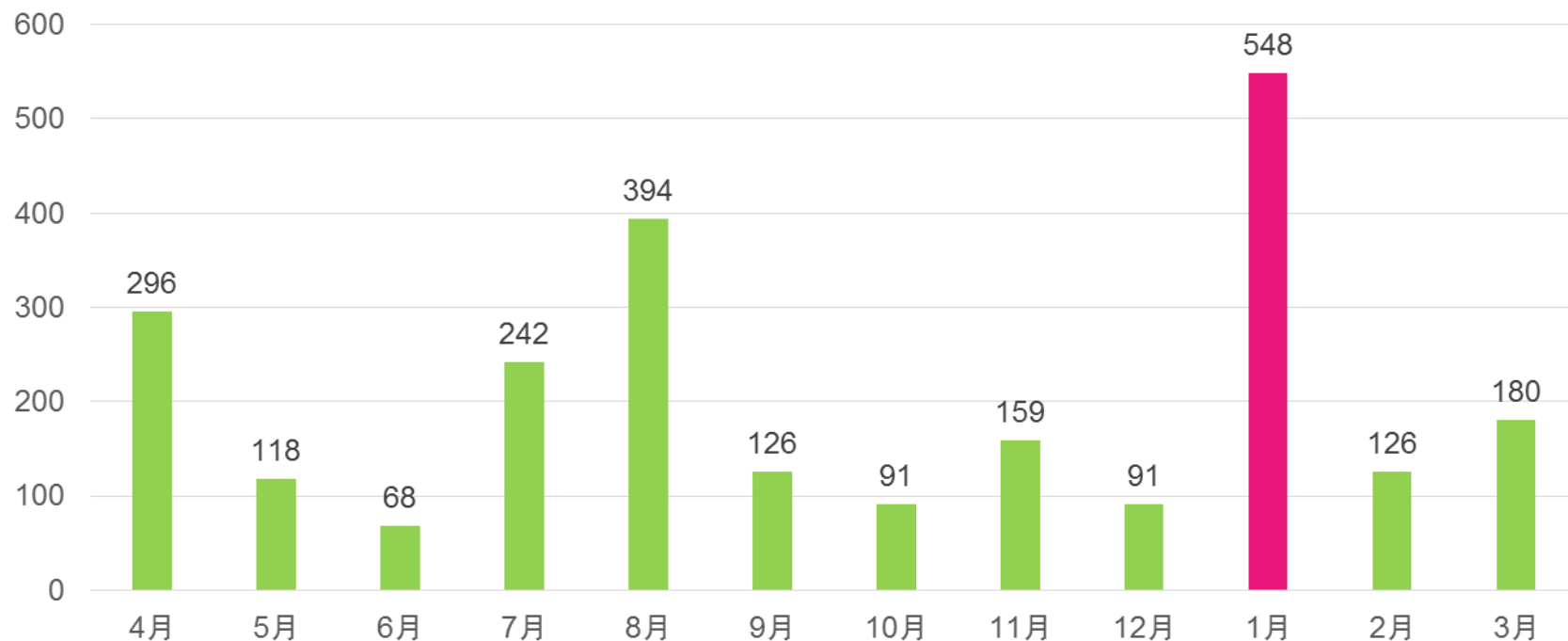
(3) 新型コロナウイルス感染症対応状況

② 帰国者・接触者外来

保健所からのPCR検査要請に対応すべく、帰国者・接触者外来を設置し、多数の検査を実施した。

〔令和2年度 帰国者・発熱外来〕

(単位：人)



(4) 事業報告の概要

①入院

①病床稼働率

(単位：%)

2年度決算	62.7
2年度計画	75.1
元年度実績	68.8

② 1 日平均患者数

(単位：人)

2年度決算	214.4
2年度計画	260.0
元年度実績	245.0

③ 1 人1日当り患者収益

(単位：円)

2年度決算	57,364
2年度計画	58,400
元年度実績	56,393

②外来

① 1 日平均患者数

(単位：人)

2年度決算	742
2年度計画	830
元年度実績	819

② 1 人 1 日当り患者収益

(単位：円)

2年度決算	19,022
2年度計画	17,000
元年度実績	17,129

2. 令和2年度歳入歳出決算の概要

- 収益的収入及び支出

(単位：千円)

	収 入	支 出	差 引
2年度決算	10,889,842	9,515,066	1,374,776
2年度予算	9,577,976	9,557,834	20,142
元年度決算	9,044,591	9,226,767	△182,176

3. 令和2年度歳入歳出決算の総括

(1) 収入では、外来患者数、入院患者数がともに減少したものの、新型コロナウイルス感染症関連の補助金を獲得したことにより収入増となった。

108億8,984万円（前年度比 120.4%）

(2) 支出では、給与費、設備関係費等の増加により支出増となった。

95億1,506万円（前年度比 103.1%）

(3) 以上、支出を上回る収入により、収支差引額は、13億7,477万円の黒字決算となった。

〔今後の課題〕

黒字決算による内部留保で、更なる新型コロナウイルスの感染対策やコロナ収束後を見据えた業務効率化（デジタル化等）を進める。

〔新型コロナウイルスワクチンの接種状況〕

令和3年6月7日から一般高齢者向けに接種を開始した。

4.補助金一覧

(1) 運営費補助金

補助元	新型コロナ以外	新型コロナ関連	備考
国庫	6,175,442円	437,825,148円	処遇改善等実施
都道府県	46,048,908円	1,870,105,876円	空床確保料 @74,000円/日
市町村	49,678,000円	52,355,000円	緊急支援金等
その他	783,553円	10,531,479円	本社、企業、個人等
補助金合計	102,685,903円	2,370,817,503円	

(2) 施設設備補助金

補助元	新型コロナ以外	新型コロナ関連	備考
国庫	0円	4,345,000円	検査機器等
都道府県	0円	59,005,124円	人工呼吸器等
市町村	0円	6,814,500円	検査機器等
補助金合計	0円	70,164,624円	

令和 2 年度事業報告 及び医療特別会計歳入歳出決算



古河赤十字病院

1. 令和2年度事業報告

(1) 病院の特徴

①病床数 許可病床：200床 実働病床：200床

②診療科 27診療科

③特 徴

- ・ 地域災害拠点病院
- ・ 二次救急医療施設
- ・ 第二種感染症指定医療機関
- ・ 病院機能評価認定施設
- ・ 地域包括ケア病棟(50床)
- ・ 救急救命士実習病院
- ・ 地域医療支援病院
- ・ 病院群輪番制病院
- ・ 小児救急二次輪番病院
- ・ 認知症疾患医療センター
- ・ 自治医科大学地域臨床教育センター
- ・ 難病医療協力病院 他

④職員数 職員数：259人（非常勤・嘱託職員は除く）

医師：31人、看護師：131人、医療技術者：57人

その他：40人

(2) 重要施策

①新型コロナウイルス感染症対策と対応

- ・全入院患者への抗原定量検査を実施するとともに、全職員が手指消毒・検温等感染対策を励行し、患者等と対応する際にはフェイスシールドを装着するなど院内感染防止策を徹底した。
- ・最大50床の専用病床を確保し、古河市のみならず筑西市、坂東市、常総市などの周辺地域から178人の感染者受入れを行った。
- ・引き続き安定した診療継続を目指し、新型コロナウイルス感染症入院病床確保事業補助金を始め、各種補助金の確保に努めた。
- ・近隣医療機関従事者へのワクチン接種を実施した。

②医療機器の更新

- ・診療の陳腐化を防ぎ、先進の医療を行うため、CT（コンピュータ断層撮影装置）の更新を行った。これにより、撮影時間の短縮が図られ、1日の撮影可能件数が増加することとなった。

③経費節減の取組み

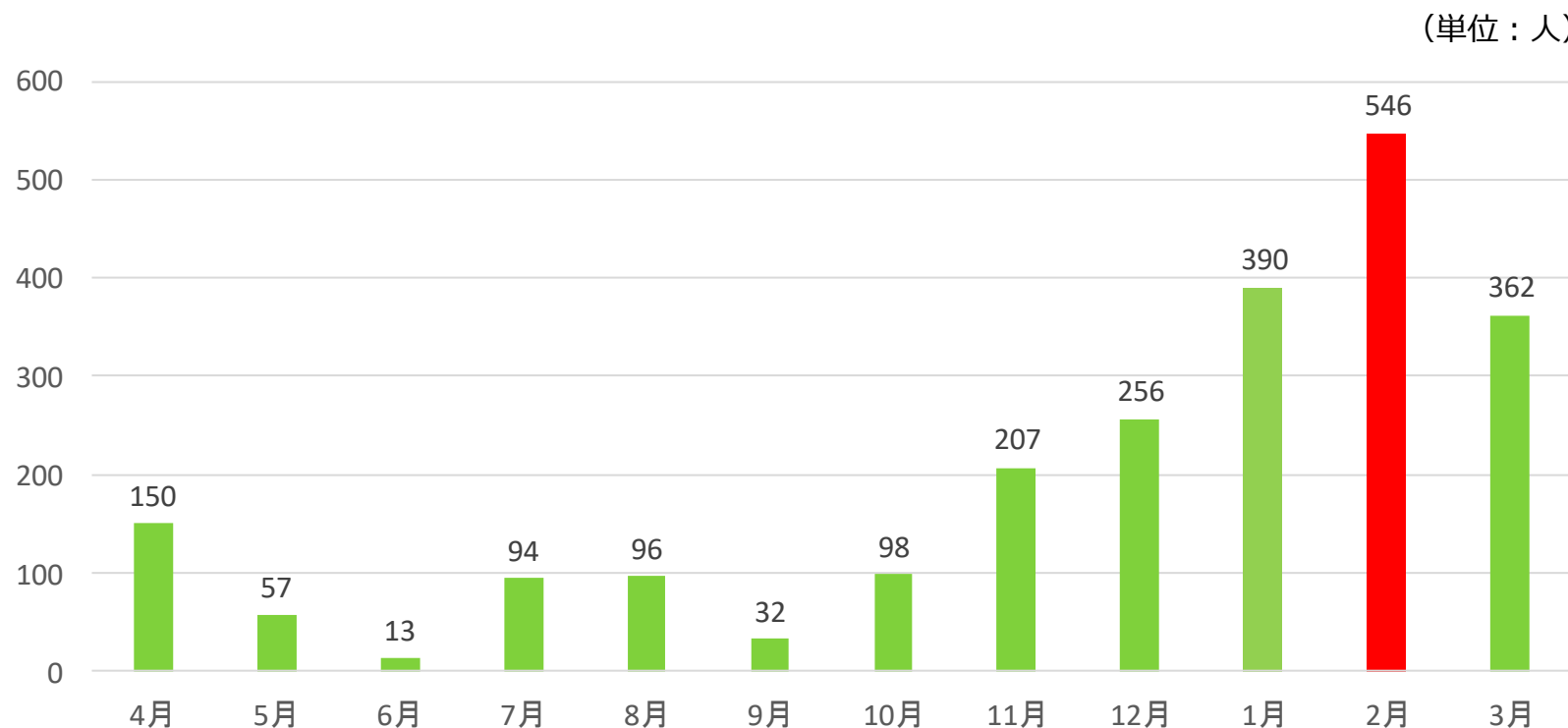
- ・照明のLED化を実施し、電気料の8%（419万円）を削減した。今後5年間で3,000万円程度の電気料縮減を見込んでいる。

(3) 新型コロナウイルス感染症対応状況

①入院患者受入

新型コロナウイルス感染症患者対応のため、重点医療機関として専用病床を整備し、多くの陽性患者を受け入れた。

〔令和2年度 入院状況〕 延人数

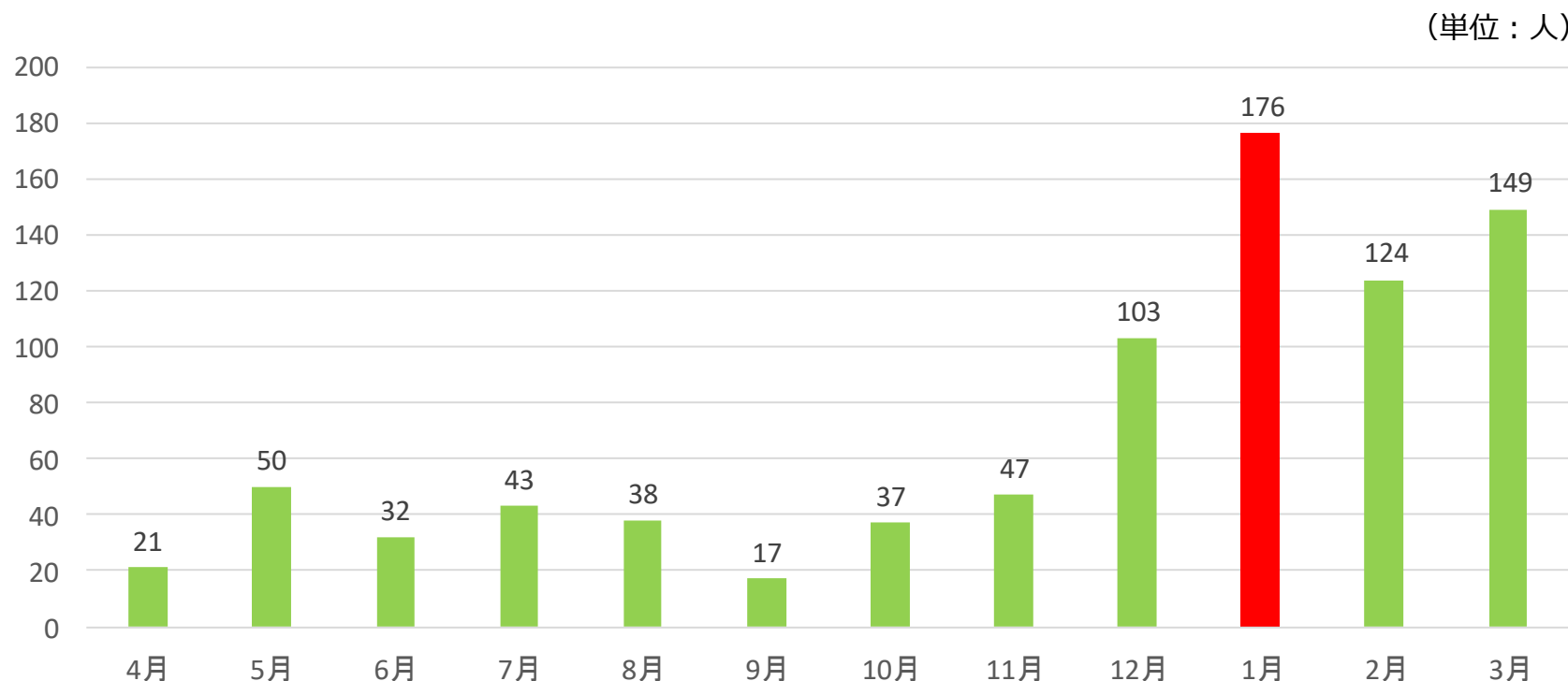


(3) 新型コロナウイルス感染症対応状況

② 帰国者・接触者外来

保健所からのPCR検査要請に対応すべく、帰国者・接触者外来を設置し、多数の検査を実施した。

〔令和2年度 帰国者・発熱外来〕実数



(4) 事業報告の概要

①入院

①病床利用率

(単位：%)

R2年度実績	66.8
R2年度計画	80.0
R元年度実績	77.9

②1日平均患者数

(単位：人)

R2年度実績	133
R2年度計画	160
R元年度実績	156

③1人1日当り患者収益

(単位：円)

R2年度実績	47,979
R2年度計画	46,200
R元年度実績	45,446

②外来

①1日平均患者数

(単位：人)

R2年度実績	405
R2年度計画	500
R元年度実績	492

②1人1日当り患者収益

(単位：円)

R2年度実績	12,333
R2年度計画	11,800
R元年度実績	11,882

2. 令和2年度歳入歳出決算の概要

・収益的収入及び支出

(単位：千円)

	収 入	支 出	差 引
R2年度決算	5,352,447	4,430,290	922,157
R2年度予算	4,719,162	4,716,539	2,623
R元年度決算	4,576,458	4,476,455	100,002

3. 令和2年度歳入歳出決算の総括

(1) 収入では、外来患者数、入院患者数がともに減少したものの、新型コロナウイルス感染症関連の補助金を獲得したことにより収入増となった。

53億5,245万円（前年度比 116.9%）

- (2) 支出では、患者数減少に伴う材料費の減少や、職員給与は増加したものの、日本赤十字社本社からの指示に基づく退職給付債務の仕訳上の年度末整理を行ったことにより、給与費が減少したことから、支出全体では減少となった。
44億3,029万円（前年度比△1.03%）
- (3) 以上、支出を上回る収入により、収支差引額は、
9億2,216万円の黒字決算となった。

〔今後の課題〕

黒字決算による内部留保で、更なる新型コロナウイルスの感染対策や水害対策を行う。

〔新型コロナウイルスワクチンの接種状況〕

令和3年3月から地域の医療従事者（延べ2,090人）へ、5月からは高齢者等（延べ5,000人）への接種（8月11日までの予定）を開始した。

4.補助金一覧

(1) 運営費補助金

補助元	新型コロナ以外	新型コロナ関連	備考
国庫	5,878,000円	279,633,998円	緊急支援金等
都道府県	12,042,971円	957,703,530円	空床確保料@74,000円
市町村	4,323,000円	11,000,000円	新型コロナ受入医療機関 支援金等
その他	10,470,389円	8,186,000円	本社等
補助金合計	32,714,360円	1,256,523,528円	

(2) 施設設備補助金

補助元	新型コロナ以外	新型コロナ関連	備考
国庫	0円	33,671,158円	人工呼吸器・検査機器等
都道府県	322,000円	91,124,470円	検査機器等
市町村	0円	0円	
補助金合計	322,000円	124,795,628円	

令和 2 年度事業報告 及び社会福祉施設特別会計 歳入歳出決算



支部乳児院

1. 令和2年度事業報告

(1) 乳児院の特徴

①定員 38人

②特徴

- ・ 小規模グループケア
- ・ 病後児保育事業（デイサービス）
- ・ 子育て短期支援事業（ショートステイ）
- ・ 日曜の家事業
- ・ 子育て支援事業

③職員数 38人

看護師：6人、栄養士：1人、福祉職：16人、事務職：2人、他嘱託等：13人

(2) 事業報告概要 I

①新型コロナウイルス感染症対策

- ・ 入所予定児へのPCR検査の徹底
- ・ ボランティア及び実習生の受入れを中止
- ・ 保護者のオンライン面会を導入（来院面会禁止）
- ・ 職員の体調管理の徹底
- ・ 職員を2班に分けた勤務体制の実施

②事業

- ・ 里親委託のための事前外泊など期間を短縮して実施

※里親とのマッチングを目的に、通常1～2週間外泊を行うところ1～2日に短縮。

※事前の外出・外泊回数が少ないまま里親委託となるため、委託後の訪問回数を増やす等、児童相談所と合同で状況を鑑みながら実施。

(3) 事業報告概要Ⅱ

①事務費収入

・入所定員 38人

②事業費収入

・入所人数 32人 (月平均)

・一時保護委託 19人 451日間

・被虐待児受入加算 5人

③受託事業収入

・病後児保育事業 (デイサービス)

・子育て短期支援事業 (ショートステイ)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業は中止

2. 令和2年度歳入歳出決算の概要

(1) 収入及び支出

(単位：千円)

	収入	支出	差引
R2年度決算	390,045	307,268	82,777
R2年度予算	388,532	308,208	80,324
R元年度決算	422,294	345,004	77,290

3. 令和2年度歳入歳出決算の総括

(1) 収入では、措置費保護単価の減額及び、受託事業を中止したことにより収入減となった。

3億9,004万5千円（前年度比 92.4%）

(2) 支出では、人件費等の減少により支出減となった。

3億726万8千円（前年度比 89.1%）

以上、収入が支出を上回ったことにより、収支差引額は8,277万7千円の黒字決算となった。

令和 2 年度事業報告



茨城県
赤十字血液センター

1. 血液センターの特徴

令和3年3月31日現在

- ①施設 : 血液センター（茨城町）
出張所（つくば市）
献血ルーム（つくば市・水戸市）
- ②職員数 : 正規職員 108名 常勤嘱託等 64名
- ③車両 : 移動採血車 7台 献血運搬車 15台
その他車両 17台

2. 血液事業

- ・ 血液事業運営は、「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」等の関係法令を遵守
- ・ 採血事業者及び医薬品販売業者としての責務である血液製剤の安全性及び安定した供給体制の確保
- ・ 献血者の保護
- ・ 関東甲信越ブロック血液センターと同ブロック内の地域血液センターと連携し、円滑な広域需給管理体制の推進

3. 令和2年度事業報告の概要

(1) 事業内容

①献血者の安定的確保

- ・新型コロナウイルス感染予防対策として、マスク着用、体温測定、手指消毒のほか、換気や消毒清掃を徹底し、献血会場の安全性を確保
- ・感染拡大の中で中止となった会場の代替会場を確保したうえで、「献血は不要不急なものではなく医療には絶えず必要であること」を広報し、継続的な協力への理解促進を実施
- ・献血受入計画を達成するため、県・市町村及び献血推進団体等と連携

②血液製剤の安定供給の確保

- ・医療機関からの需要に応じて、血小板成分献血及び400mL献血を推進
- ・医療機関の需要に的確かつ迅速に対応できる24時間の供給体制の充実

③献血推進キャンペーン等の実施

	実 施 時 期	名 称
1	令和2年9月～3月	大口会場強化キャンペーン
2	令和2年9月	紹介者キャンペーン
3	令和2年10月～11月	はじめて献血キャンペーン
4	令和2年11月～令和3年1月	ガルパンキャンペーン
5	令和2年12月～令和3年2月	冬季献血キャンペーン
6	令和2年12月	Xmas献血キャンペーン(休日)
7	令和2年12月	シニア献血キャンペーン
8	令和3年2月	バレンタイン献血キャンペーン(休日)
9	令和3年1月～令和3年3月	茨ひよりキャンペーン

(2) 採血実績

(単位：本)

採血種別	R元年度実績	R 2 年度計画	R 2 年度実績	対前年度比	対計画比
200m L 献血	3,505	2,770	3,385	96.6%	122.2%
400m L 献血	67,428	66,690	69,151	102.6%	103.7%
血漿成分献血	19,770	21,946	23,068	116.7%	105.1%
血小板成分献血	9,799	10,316	9,872	100.7%	95.7%
合 計	100,502	101,722	105,476	104.9%	103.7%

(3) 供給実績

血液製剤供給本数

(単位：200mL換算本数)

製剤別	R元年度実績	R 2 年度計画	R 2 年度実績	対前年度比	対計画比
全血製剤	0	0	4	—	—
赤血球製剤	129,857	130,500	130,075	100.2%	99.7%
血漿製剤	34,453	32,900	33,053	95.9%	100.5%
血小板製剤	165,780	162,560	160,385	96.7%	98.7%
合 計	330,090	325,960	323,517	98.0%	99.3%